

プール学院報

愛と奉仕

140th
POOLE GAKUIN
FOUNDED 1879

第87号

2018年8月
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

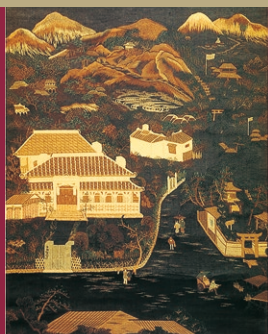
TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431

プール学院短期大学入学式
(2018年4月3日)



プール学院中学・高等学校入学式
(2018年4月4日)



プール主教邸の日本刺繍

CONTENTS

理事長・学院長挨拶	1
特別鼎談企画	2
【短期大学】	
秘書科の取り組み	4
幼児教育保育学科の 取り組み	5
【中学校・高等学校】	
校長挨拶	6
教諭メッセージ	7
生徒メッセージ	8
卒業生紹介	8
進学実績	9
クラブ等の成果	9
キリスト教の メッセージ&コラム	10
法人だより	10
学院人事	10
同窓会だより	12
編集後記	12

ご挨拶

断念の彼方にある希望

理事長・学院長 杉山 修一

先ごろ歴史展示コーナーに一幅の刺繍を展示した。これは来日後わずか10ヶ月で体調を崩し静養のために失意のうちに離日することになったプール主教への感謝のプレゼントとして神戸在住の人々がプール主教邸を日本刺繍にしたものである(左写真)。この日本刺繍の存在は以前から知られており、主教の子孫が大切に保管しておられ、30年ほど前、創立110周年記念誌を編纂する際、英国に出向きこの刺繍を写真撮影して記念誌の表紙にしたのである。このたび主教のひ孫にあたるデイビッドソン夫人が老齢のためオックスフォードの自宅から転居することになり、刺繍をプール学院で保管してほしいと寄贈してくださったのである。刺繍には主教との別れを惜しむ人々の手紙とサインが添えられており、そこには主教への感謝と健康の回復と再来日を期待する思いが記されている。日付は1884年10月1日、実に134年ぶりの刺繍の帰国である。

オクスラドの始めた永生学校を支援するために尽力された主教は翌年、故郷英国シュルーズベリーで33歳の若さで天に召される。小さな

女学校が神の栄光を顕す学校として立派にその使命を果たしてほしい、主教はそう願っていた。しかし、健康の悪化によって、志半ばで日本宣教を断念せざるを得なかった主教の無念はどれほどのものであったろう。

主教の名前を冠した私たちの学院は来年創立140周年を迎える。学院の状況は少子化の中で厳しさを増しているけれど、思えば創立以来常に厳しい時代状況の中で学院は生きてきた。そしてその都度、プール主教の断念とそれを希望へと変える神の導きを信じて、学院は生きてきた。そして繰り返し私たちは使命を果たしているのかと問うてきた。社会も環境も制度も絶えず変化してきた。しかし、変わることはない宝を私たちの学院はもっている。それこそがプール学院の存在理由、また教育機関としての存在の意義に他ならない。プール主教が望み続けた「神の栄光を子どもたちの人格を完成することで顕していく」という使命を今どれほど私たちは自覚しているのか、134年ぶりに帰国した刺繍は問いかけている。

新しい歩みに向かって

—プール学院と同窓会—

いよいよ140年の歴史を刻むプール学院。さまざまな変化の中で、同窓会が担ってきた役割、そして未来に向けてどう役立てていくべきか。立場の異なる3者の視点から新しい同窓会のあり方を語り合いました。

学校法人プール学院
理事長・学院長 杉山 修一
(写真:中央)

一般社団法人POOLE理事長
鈴木 光子(高73回・小柴)
(写真:右)

プール学院ミツパ会
(短期大学・大学同窓会)会長
五十嵐 よし子(高84回・短英26期・佐藤)
(写真:左)

自分たちだけでなく、 社会に貢献するために。

杉山:プール学院の同窓会は1928年にトリストラム先生が社団法人格を取られて活動してきました。これは、自分たちの親睦団体というよりも、社会的に貢献することを意図されて設立された団体という立ち位置です。

鈴木:その考えは今も脈々と受け繋がれているのを感じます。そして未来にも繋げなければいけないと感じています。

五十嵐:プール学院の同窓会が他と大きく違うのは、「キリスト教の精神を基本にしている」ことです。

在学中と同じように、卒業してからも「社会に貢献したい」という想いがあることだと思います。



杉山:同窓会が社団法人の法人格を取って、幼稚園を始める。つまり同窓会自体が学校の親睦団体、後援団体を超えて自分たちが主体的に社会奉仕活動などを行っています。これはすごいことだと思うのです。

五十嵐:先輩たちのそのエネルギーは一体どこから出てきたのでしょうか。それは今の私たちには少し欠けているところで、「何かしなければ」と模索はしているのですが、なかなかカタチにできなくて。

杉山:宣教師の先生たちの働きが大きかったのではと思います。トリストラム先生はプール学院が良くなることだけでなく、「大阪の希望は私たちの学校から」という意識で学校運営をされていました。この考えこそが、まさにプール学院の宝物であるように思います。

五十嵐:建学の精神である「神の栄光のために」の解釈は時代によって変わるかもしれませんが、これは、創立140年になろうとする、プール学院の伝統の根本にある考えなのかなと感じています。

変化する環境の中で、 同窓会をいかに活用するか。

杉山:その伝統がある一方で、今回、大学が桃山学院教育大学へと設置者が変更になったり、短期大学の募集停止という苦渋の選択をしたことで、同窓会の方々に、今までの歴史や使命、誇りを失



わせることになったらいけないと思っています。今後プール学院は中学・高校を中心に進んでいきますが、同窓会組織においては、これまでの基本理念を大切にしながら、これからも活発に活動して行って欲しい。

鈴木:短大のことに関しては、同級生の間では「残念だけど今の時代を考えたら仕方ないことよね」という受け止め方が多くありました。卒業して随分経つからかもしれませんが。

五十嵐:私の周りの方々はとにかくショックを受けてらっしゃる方が多いです。プール学院短期大学の名前を残す手立てはなかったのかと、まだ納得できていない方も多いようです。

杉山:言葉が適切かはわかりませんが、何か終わっていく時というのは立場によって受け止め方が随分変わらと思うのです。

140年のプール学院の歴史の中でも女学校を廃校して高等女学校になったり、大学の方でもわずか10年の間に大きな変化がありました。ただ法人としてのプール学院はこれからも存続していきます。



鈴木:もちろん同窓会もずっと続いていくわけですし、人と人のつながりもずっと続いていきます。先日関東支部の集まりに出たら本当に若い人たちが、いろんなキャリアを持っている人たちがたくさんおられました。それは大阪はもちろん、日本、そして世界中に。プール学院にはこんな素晴らしい卒業生がいるんですよとかももっともアピールしていきたい。そして同窓会をもっともって活用していただけたらというのが私たちの願いです。



杉山:プール学院の同窓会は国内だけでなく、バンクーバー、ニューヨーク、米国東部支部があり、みなさんプール学院への強い思いを持たれています。学年を飛び越えてみんな集まっておられます。国内外を問わず強いつながりがありますから、例えば社会で活躍している方なら商売やキャリアでネットワークを広げるために活用することもできると思います。

鈴木:一方で60歳を過ぎ、お仕事を辞めだした人たちのクラスでは、自然と集まりが増えてきました。また、同窓会館では同窓会を頼りにしている人たちも結構いて、電話で相談などを持ちかけてこれ、30分くらい話したあと、ありがとうございますと電話を切る方もいらっしゃいます。何か心の拠り所のようなもの。それも同窓会館の一つの役目なのかなと思いますね。

五十嵐:学校にもお電話が掛かってくることがありますよね。プール学院には、実家に戻るような感覚があるのでしょうかね。

杉山:だからこそオープンハウスデーをはじめ、プール学院の同窓会の良さを伝えていかなければいけないのかもしれないですね。今は本当の意味で人間が深いところでつながっているのが難しい時代です。

SNSでのつながりもいいのですが、本当に自分のことを支えてくれたり心配してくれる仲間って、数人いてくれたらいいと私は思うのです。そういう意味で「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である」の一節のように、つながっていることが同窓会の一番のメリットです。

五十嵐:同期だけでなく、縦と横のつながりがあることもすごく大きいと私は感じています。

杉山:熊本で地震があった時に、同窓会の関係の人たちには大きな被害はありませんでしたと報告がありましたよね。同窓会が災害の時に連絡を取って安否を問うのと同時に、相手のことを忘れていない、想っているという存在であることも、大きな力になるのではと思います。

時代に合わせた同窓会のあり方を、若い力とともに。

杉山:ミヅパ会の今後の取り組みについてですが。

五十嵐:ミヅパ会自体、短大・大学・大学院を卒業した方々のための同窓会組織ですので無くなることはありません。ただ、今後は会費の徴収、収入が無くなるため、その活動の方法や広報の仕方の変更を考えており、一般社団法人POOLE（プール学院同窓会）と共に行動して行きたいと思いますという話も出ています。ところで収入のあり方として、収益事業をしてもいいのでしょうか？

鈴木:できますよ。今も売店などでの収益から税金も払っています。また、総会の時には会館でバザーをしています。卒業生が各地から「役立ててください」と手作りのものを送ってくださったり、会館で手を動かして小物を作ってくださいたりしたものを販売し、その収益を同窓会の運営や学校のために使用できるようお支えいただいています。プール学院の同窓生の素晴らしさが嬉しく、とても感謝しています。

五十嵐:ミヅパ会もコンスタ

ントに収入が入る方法を考えないといけませんね。

鈴木:それは一般社団法人POOLEも同じです。プール学院あつての同窓会ですから。だからこそ、今後若い方が同窓会を引っ張ってくれたらとてもありがたく、また心強いと思っています。

杉山:そのためには「同窓会が時代に合わせて変化すること」も大切なのではないのでしょうか。例えば清心館でも「昔の方が良かった」という人もたくさんいます。けれど、今の生徒に最もいいものを与えるためには、古い清心館を壊して、新しい清心館を建てるのが大切なのです。同窓会も、「昔はこうだったよね」とか、「良かったよね」というのは、それはその時一番いいものだったからです。今の若い人たちにとって一番いいものとは何かというところに対して心を開いていかなければいけない。つまり、これまで大事であったものを、今に置き換えて考えないといけなかなと思いますね。

五十嵐:今日のお話を通じて、同窓会も時代の変化に合わせて前に進んでいかなければいけないと改めて実感しました。プール学院を良くするためにも、まずは若い人に多く参加していただきたいし、参加したくなるような組織にしていきたいと思っています。

鈴木:社会に貢献するという法人の理念、人と人とのつながりが生み出す力。同窓会を通じて、卒業生の未来に新しい希望を与えられるように努めていきたいと思えますし、またご協力いただければと切に思っています。



秘書科の取り組みについて

秘書科ではアクティブ・ラーニングを積極的に導入しています。前号「プール学院報86号」に続き、今回は3名の学生の声と1名の教員の報告をご紹介します。

秘書科プロジェクト 「発想力を高めてクールなデザイン」 に参加して

秘書科2年次生 尾崎 由美

このプロジェクトは、発想力を鍛える頭のトレーニングをして、これまでにない道具や工芸品のアイデアを考え、実際に作るというものです。今回、私は「円座クッション」を作りました。丸く穴の開いた形状にインテリアとしての面白さを加えるため、表面と裏面を異なるデザインにしました。表面は日玉焼きをイメージしています。黄味の部分は、取り外して小さなクッションになります。裏面はドーナツをイメージしました。ラメ入りの生地を使い、砂糖をふりかけたように仕上げ、可愛さと色合いを重視しました。

表面と裏面のデザインを変えることで、気分の転換となり長く愛用してもらえんと思います。こうして鍛えた発想力を今後の日常生活や仕事に活かしていきたいと考えています。



円座クッション(紹介ポスターより)

秘書科プロジェクト 「カナダ研修プロジェクト」 に参加して

秘書科2年次生 北浦 佑華

カナダ研修プロジェクトでは、カナダの学生が実際によく食べるランチをみんなで作って食べたり、お昼休みに集まってカナダの地理・歴史・国民性・動物のなどをクイズ形式で学ぶことができました。プロジェクトの最後には、今まで学んだこと、自分が一番興味を持ったことを深く調べたことなどを英語で発表しました。英語が苦手でも、担当のアーサー先生が時間をかけて教えてくださいましたので、きちんと理解することができました。

異文化を学ぶことは驚きの連続でした。カナダ研修プロジェクトに参加して自分自身の知識や視野を広げることができたと思います。さまざまなことに興味や関心を持つことが大切だと感じました。



カナダ研修プロジェクト・ポスター発表

秘書科特別プロジェクト 「関西国際空港研修」 に参加して

秘書科2年次生 瓦谷 津香沙

私は関空国際空港での研修に参加し、普段絶対に体験できない多くの貴重な経験ができました。実際に働いているグランドスタッフの方に「働いていて楽しいこと、大変なこととは?」「外資系グランドスタッフになろうと思ったきっかけは?」など積極的に質問しました。一つひとつ、優しく丁寧に答えていただいて「さすが、接客のプロフェッショナル!」と感動しました。また、視点を変えてお客様の立場からの研修も体験しました。顧客である航空会社のニーズを反映した機内食はとてもおいしく、品質の高さを感じられるものばかりでした。徹底した衛生管理にも感心しました。



関西国際空港・国際線ロビーにて(前列右から2番目)

幼い時から憧れていた職業を身近に感じ、自分の目標を見つけられました。この研修は大変思い出深いものとなりました。

就職合宿セミナー

秘書科教員・教授 大嶋 耕一

昨年に引き続き、今年の2月15日(木)から1泊2日で、秘書科1年次生(現2年次生)11名が参加して就職合宿セミナーを実施しました。内容は就職活動で直面する面接やグループディスカッション等の極意修得です。就職が決まっている2年次生4名も参加し、1年次生に貴重な体験談を話してくれました。

昨年は朝から晩までみっちりスケジュールの詰まったかなり厳しい内容でしたが、今年はもう少し余裕を持った内容に修正したこともあり、学生の満足度は4.7(5点満点)と高評価でした。研修と宿泊はセミナーハウスですが、食事と入浴は近くの温泉です。参加学生にとっては充実した内容に加えて、極めてコストパ



就職合宿セミナーの様子

フォーマンスの高い合宿になったのではないのでしょうか。

幼児教育保育学科の新たな取り組みについて

生活創造A ～「共食」のちから～



参加した学生たち

この4月から幼児教育保育学科の自由選択科目「生活創造」が発足しました。自らの生活や人生を創り出すことを目的としています。この科目がもつ自由な発想、意欲、体験が、自己の可能性を拓げるだけでなく、専門性を深めることにもつながります。

この講座では「共食」をテーマにしています。みんなで一緒に食物を採取し、調理し、食べる、という「共食」は、ヒトの進化に大きく寄与してきました。その視点から食を捉えると、いろいろな世界が広がり「共食」のもつ力を気づかせてくれました。

放課後児童デイサービス「さんさんくらぶ」では、小学生から高校生までの障がいがある子どもたちと、「共食」を通じた感覚統合療法に取り組んでいます。この7月、生活創造A講座では、さんさんくらぶの子どもたちと「共食」を体験しました。身体や発達に障がいがあっても、「共食」は子どもたちの可能性を引き出す力があることを学びました。



「ベビーシッター」資格取得について

幼児教育保育学科では、2018年度より「公益社団法人全国保育サービス協会」が制定する「認定ベビーシッター」資格を取得できるようになりました。保育資格が前提にはなりますが、保護者等の委託を受けて子どものいる居宅を訪問し、保育サービスをする職業です。公立、民間の保育園以外にも、保育の仕事ができる場所は数多くあります。近年待機児童など、大きな

社会問題を解決するため、保育施設数の増加や人材育成が進められているので、保育の仕事に就けるチャンスは多くなります。



ベビーシッターの資格はなぜ必要なの？

一つ目は、就職の際に有利となります。認定ベビーシッターの資格を取得しておく、就職の際にもスムーズに応募まで進むことがあります。

二つ目は、保護者や子どもたちのためになります。資格があると無いのでは、知識や技術などにも差があります。それは保

護者にとっても安心感や信頼性などにも、大きな差があることとなります。

三つ目は、自身のためにもなるということです。資格を取得することは、様々な内容を学び、そのことが自分の身につき、自信となります。ベビーシッターは、利用者への対応や仕事への姿勢が異なります。幼児教育の質が問われるなか、「一人ひとりの子どもに合った教育を受けさせたい」と考える保護者も増えています。

「育児経験がある」というだけでなく、幼児教育に関する専門知識や様々な技術をもっているベビーシッターは、これからどんどん需要が伸びていくと考えられます。

乳幼児期の子どもたちは、家族、地域・社会の人々と関わりながら育ちます。保育者が担うものはとても大きいと実感しています。保育者として、子どもたちと過ごす毎日の「保育」は、奥の深い魅力的な世界です。活躍する場所は違っても、自分の仕事や判断などに自信が持てるように、より良い保育サービスを提供していくベビーシッターの資格は必要だと言えます。





写真1



写真2

第1回 大阪キリスト教学校交流会を終えて

校長 内海 伸晃



「大阪にあるキリスト教学校の良さをアピールし、募集活動にもつなげていく。」という趣旨で大阪府下のキリスト教主義の学校14校が2010年「大阪キリスト教学校フェア」としてスタートした。この14校はカトリック、プロテスタント関係なくすべてのキリスト教主義の学校が参加した。2010年スタート時点では東梅田教会で各学校のパフォーマンスが行われる程度であった。一般の受験生もまばらで、内容や準備、開催場所が教会であったため入りづらい等の問題点も多く抱えていた。回数を重ねる毎に改善される面もあった。場所も大阪YMCAをお借りし、各校のブースも割り当てられた。組織的にも実行委員や幹事校も決まり、やや大がかりな運営になってきた。第5回からは場所が太閤園になり経費もかさみ、募集対策上の色合いが増してきた。第7回から場所が阪急うめだホールになり、各校のパフォーマンスも充実してきたが、来場者の中身は出演者の保護者も多く、本来の趣旨から外れていった感があった。ブースでは人気校に偏りがあり、「大阪キリスト教学校フェア」そのものを見直す動きが出てきた。

その反省を踏まえ誕生したのが、『大阪キリスト教学校交流会』である。今回の趣旨は「私達自身、教員も生徒も他校のキリスト教学校の内容をよく知らないのではないか?お互いをもっと他校の様子を知る事が大切ではないか」というところからスタートした。たまたま私が会長を務め、重責を負うこととなった。今回は実行委員長の星光学院での交流会という企画が決まり、大阪14校あるすべてのキリスト教主義の学校の生徒代表者、教員が集結した。この会の運営や内容について何回か実行委員会が開かれ、下記のような内容で実施された。

- 内容は
- 1 その学校(星光学院)をよく知る。
 - 2 その学校で参加者全員でミサ・礼拝を行う。
 - 3 グループで分かち合いを行う。

各校から生徒・教員およそ100名が参加した。教員は宗教主事やチャプレン、聖書科の先生方が多く、校長先生もたくさん参加されていた。本校からも生徒8名(中学生4名、高校生4名)、教員3名が参

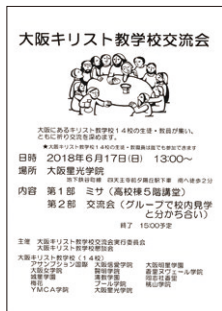
加した。受付を済ませ、体育館に案内された。そこで星光学院の神父、校長によるミサが厳粛に行われた。カトリックの形式でミサが進められた。賛美歌はどの学校でも歌われている曲が用いられていたので、美しく賛美されていたように思う。女子校の生徒にとっては男性の声が聞かれ、男子校の生徒にとっては女性の美しい声が聞けたことにお互い気持ちよく歌えたようだ。聖書朗読も各校の代表者が朗読し、共同祈願も代表者がそれぞれ日頃から感じている感謝や弱者への素直な思いでお祈りを捧げていた。その姿に感動をおぼえた。厳守で暖かみのあるミサであった。

学校見学では星光学院の生徒達が各グループに2名ずつ引率し、丁寧に校内をあらかじめ予定していたコースを案内してくれた。(写真1)礼拝堂や宿泊施設、普通教室など、日頃の生活や授業、クラブ活動に対して詳しく説明していただいた。生徒達の素朴で純真な態度に感銘を受けた。

また、最後の分かち合いでは、食堂で各校の宗教行事、宗教の時間、などの情報交換や星光学院を見学しての感想や意見交換が行われた。また各校の自慢できる所など、自由に発言がなされ、他校の様子も知ることが出来た。(写真2)

本校の参加した生徒達の意見をまとめてみると、「カトリックのミサに初めて参加し、一体化を感じて感動した」「めったに行くことのない男子校に行くことが出来て楽しかった」「他校の学校の様々な活動を知る事ができて、良い刺激になった」「みんなで一緒に聖歌を歌えた事が心に残っている」「もう少し、お互いの自己紹介や緊張を解きほぐす時間があっても良かった」などそれぞれに有意義な時間を過ごせたようだ。

その日の夕方、各校長による懇談会が行われた。各校長先生の意見をまとめてみると、「本来のキリスト教学校間の交流としてはすばらしかった」「星光学院の生徒達がよく世話をしてくれた」「参加した生徒達がイイ顔をしていた」「私達教員が他校の宗教教育の実践や、どのような環境で教育が行われているのかを体で感じる事ができた」また、今後の反省点として「各校において、どのように参加生徒を



募集するのか」「教員同士の分かち合いがあっても良かったのではないか」「生徒の学年が中学1年生から高校3年生と幅広く同じグループでは話がかみ合わない」「生徒達だけの話し合いでも良かったのではないか」などがあったが、概ねプラスの意見が多かった。

今回、以前の「大阪キリスト教学校フェア」の様々な反省を踏まえ、新たに第1回『大阪キリスト教学校交流会』を無事終えることができ、幹事校の星光学院の校長先生はじめ、関係者、生徒の皆さん、特に実行委員長の村田先生には大変お世話になり、感謝申しあげる。大阪のキリスト教学校が今後、お互いをよく知り、お互いが切磋琢磨し、キリスト教学校として建学の精神を全うし、持続可能な発展ができるよう努力を続けていきたい。

「協働作業所こさり」と プール学院の関わり

宗教科教諭 松原 恵美子

1997年秋、当時の中2学年会で、2学期の人権HRをどうしようかという議題から、コリアタウンにフィールドワークに行ってみようかという話ができました。1学期に映画「キムの十字架」を見て、7月に希望者で高槻市にある高槻地下倉庫（通称タチソ）のフィールドワークを実施したこともあり、「コリアタウン、いいんじゃない。」ということになりました。どのようなフィールドワークにしようかと考え、オリエンテーリングをすることにしました。チェックポイントを考える際、聖公会生野センター主事の呉光現氏に相談したところ、チェックポイントの1つとして「協働作業所こさり」を紹介してくださいました。それが、「こさり」と私の出会いでした。それ以前から「こさり」の存在は知っていましたが、「こさり」の人たちと話をし、「こさり」が何なのかを深く知ったのはこの時でした。現在、「こさり」は地下鉄千日前線北巽駅近くですが、当時はコリアタウン近くの新平野川付近にありました。そこは1階が工房と店舗、2階が坂井幸雄さんの住居でした。坂井幸雄さんは「こさり」の代表です。クッキーなどを買うと、後ろに貼ってある原材料の下にお名前がプリントされてい



YWCAと放送部でコサリを訪問したときの様子

ます。「こさり」は、幸雄さんのためにできた作業所です。幸雄さんは重度の身体障がい、知的障がいをもち、5歳のころに両親と別れ、その後は地元の人たちに支えられて生きてきました。幸雄さんが中学を卒業したときに、支援メンバーで「彼の家を建てる会」が発足し、生野区内に住居を用意しました。そして、幸雄さんが17歳になった1988年、それまで支援してきた人たちが中心となって作業所「こさり」が設立されました。それまで、パン作りをしたことがなかった人たちが、パン屋さんに行き、パンを作り販売をする作業所が誕生します。原材料にも大変こだわりをもっています。現在も、働いている人の半数が何かの障がいのある方です。

その後、「こさり」の今井さんからプール学院中高でも、パンの販売ができませんかとの話があり、まず教員の注文販売から始めることにしました。毎週水曜日に、先生方から注文票と代金をいただき、学校に持って来ていただくということを2年半ほど行いました。途中で「やまざる組ちっぷり」という作業所の方が持って来てくださるという時期もあり、なんとなく生野区内の作業所と関わる機会ができました。2000年に高校YWCA部の生徒と話し合い、月に1回、放課後に販売会をすることにし、今に至ります。現在は月1回、月曜日の放課後に行っています。どの世代のYWCA部の生徒にも、できるだけ北巽の「こさり」を訪問し、実際に自分で作業所を見て、話を聞いて「こさり」について考えてほしいと思っています。

かつて、高Ⅲの選択聖書の授業で、希望者と作業体験に行ったこともあります。昨年度は高Ⅲ指定校推薦のボランティア体験の受け入れもしていただきました。

「クッキーおいしい」、「シフォンケーキ好き」と言ってくれる生徒は多いですが、「こさり」が何なのか、よくわからない人も増えているかと思います。かつては販売会や文化祭に幸雄さんも来てくださっていましたが、最近は体調のことなどで難しいようです。でも、幸雄さんを見かけることがなくても、1人の重度の障がいのある少年が生きていくために始めた作業所から広がっていった活動であることを知ってください。文化祭のときにはYWCA部が「こさり」の紹介の展示もしているので、見ていただけたらと思います。また、放送部が取材して放送しているので、そちらにも耳を傾けてください。

生徒メッセージ

体育祭ダンスリーダー を経験して

高校Ⅲ年A組 尾崎 莉於

3年生、最後の体育祭、といえば毎年恒例のダンス。私はダンスリーダーに立候補しました。初めて各クラスのダンスリーダーが集まった日、私はヲタ芸を提案したのですが、振り付けを1から考えるのはかなり苦戦しました。放課後、A組のダンスリーダーで残って毎日練習！毎日筋肉痛！とても動きが速かったので、皆に教えるには自分達がまず踊れるようにしないとイケないと思ったからです。A組ダンスリーダーたちの支えがあったからこそ、完成させる事ができました。最初は皆にダンスを教える事にたいして少し不安を抱いていましたが、練習を重ねていくうちに体育祭楽しみ！という声が聞こえるようになり、私自身、とても嬉しさとやりがいを感じていました。体育の授業でスムーズにダンスの練習をすすめられたのは、クラスの皆の協力もあったからです。



そしてルミカライトを持つ事が私のこだわりで、体育館を暗くする事は前代未聞の取り組みだったらしく、沢山の人に協力していただきました。もちろん後輩達にもライトを持ってほしい！と思いました。3年生だけじゃなく全員で盛り上がりたかったのです。当日は緊張と期待で胸がいっぱいのなか、各クラスの個性溢れるダンスを4曲披露する事ができ、最高の青春を作れました。

ダンスリーダーという経験が、責任感と達成感を与えてくれて私を成長させてくれたように思います。体育祭はあっという間に終わってしまいましたが、学年行事のデカパン競争では作戦を立てて試行錯誤し、クラスの仲も深まりました。大縄では声を合わせる練習をし、1つの行事のために皆で頑張ってきたのも、大切な思い出になりました。

この日を1つの通過点として、これから学校生活でも積極的に沢山の事に挑戦し、頑張っていこうと思います。

シリーズ
第27回
活躍する
卒業生

サクソプレイヤー

朝比奈 栄美さん(第108回卒業生)



音楽、そして同級生たちとの 生涯の友情を育んだプール学院。

プール学院に入学した日、学校の近くでボヤ騒ぎがありました。それを何故か祖父が教えてくれたのですが、どうして知ってるのかと聞くと、孫の入学が嬉しくてこっそり入学式について来たのだとか。

きっと一生分の本を読み、受験戦争を勝ち残って入った希望の学校。それがプール学院でした。そこには沢山の個性豊かな同級生と、多種多様な先生方がおられ、毎日がとても刺激的だった事を記憶しています。

音楽教育にとっても力を入れていたプール学院のお陰で、今では



ミュージシャンとして生きています。当たり前のように中高一貫して音楽が必修だったプール学院。受験直前でも廊下で必死に歌のテストのための三声で難曲を

みんなで歌い続けていたことを今も覚えています。

そんなプール学院を卒業して早、20年。それぞれに社会に出て、仕事に追われ、結婚したりお母さんになったり、自分を取り巻く環境は目まぐるしく変化していきました。それでも、今でも同級生達と毎月食事をし、多くのことを語り合い、そして理解し合って認め合って生きています。我がプール学院108期生は、本当に豊かな人材に富んだ学年でした。各クラスにしっかりと個性と意志を持ったリーダーがいて、それでいてみんなが認め合い、共存していた素晴らしい学年だったと自負しています。文化祭や合唱コンクールや体育祭などのイベントごとにも力一杯打ち込み、それでいて成績も優秀な同級生が多く、今でも同級生達は誇りです。

ミュージシャンと言う、ある種独特の世界に身を置くことになった今。独学で自ら掴み取って来た自分の生きる道。でもそれはプール学院で培った強い心のお陰。そして今も同級生たちとの出会いは生涯の宝です。

プール学院に行って良かった、この一点が曇った事は生涯でただの一度もありません。そしてもう一度人生をやり直せるとしても、同じ108期生たちとプール学院に通いたいと心から願う事でしょう。

2017年度高Ⅲ生の進路状況

進路指導部長 澤村 厚司

2018年度センター試験の志願者数は、前年度より6,704人多い、582,671人であった。

志願者数、受験者数ともに前年度より微増となる。受験者数は増加傾向だが、7科目以上の受験者は減少し、3科目以下の受験者が増加している。これは7科目が必要な国公立大学を避け、科目数の少ない私立大学のセンター利用方式を活用する生徒が増えていると考えられる。

私立大学は総志願者数が前年度比107と増加している一方で、

合格者は前年度比96と減少している。これは定員厳格化に合格者の絞り込みが影響していると考えられる。

本校では、卒業生214名のうち、4年制大学へ157名(73.4%)、短期大学へ17名(7.9%)各種専門学校などへ14名(6.5%)が進学した。昨年と比べて4年生大学への進学が減り、短期大学への進学が増えた。私立大学の定員厳格化が加速した影響と考えられる。資格志向は続いていて医療系(特に看護系)や生活・食物栄養系、教育系への進学者が今年も多い。後期試験の倍率が高く、難しい入試となったが、最後まで志望を貫いて、あきらめずに粘った生徒が合格を勝ち取った。今年度も、最後まで意志を貫き、粘り強く学習する生徒が増えることを望む。

2018年度入試 合格実績 卒業生数:214名

人数は現役・既卒生の合計を示す

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国公立大学計	18	京都女子大学	30	京都精華大学	1	関西外国語大学短期大学部	1
大阪府立大学	1	摂南大学	12	大阪物療大学	1	大阪キリスト教短期大学	1
大阪教育大学	3	追手門学院大学	1	甲南女子大学	27	白鳳短期大学	1
奈良女子大学	2	桃山学院大学	13	梅花女子大学	11	桐朋学園芸術短期大学	1
奈良教育大学	1	桃山学院教育大学	6	大阪樟蔭女子大学	6	大阪音楽大学短期大学部	1
奈良県立大学	1	帝塚山大学	13	神戸松蔭女子学院大学	3	大阪女学院短期大学	1
兵庫県立大学	2	四天王寺大学	6	神戸親和女子大学	3	専門・各種学校計	14
和歌山県立医科大学	1	大阪産業大学	6	4年制私立大学(近畿圏外)計	16	大阪警察病院看護専門学校	1
香川大学	1	関西福祉科学大学	4	立教大学	4	大阪赤十字看護専門学校	1
徳島大学	1	関西外国語大学	3	国際基督教大学	1	済生会中津看護専門学校	1
鳥取大学	2	大阪大谷大学	3	明治学院大学	1	大阪医療センター附属看護学校	1
愛媛大学	1	関西医療大学	3	中央大学	1	大阪病院協会看護専門学校	1
室蘭工業大学	1	帝塚山学院大学	3	東京女子大学	1	清恵会第2医療専門学校	1
福井県立大学	1	大阪音楽大学	2	国士舘大学	1	和歌山赤十字看護専門学校	1
4年制私立大学(近畿圏)計	294	大阪工業大学	2	昭和女子大学	1	大阪医療秘書福祉専門学校	1
関西学院大学	21	大阪芸術大学	2	昭和音楽大学	1	辻学園調理・製菓専門学校	1
関西大学	13	大和大学	2	日本体育大学	1	ル・トーア東亜美容専門学校	1
同志社大学	5	佛教大学	1	日本女子体育大学	1	大阪ビューティアート専門学校	1
立命館大学	1	大阪歯科大学	1	武蔵野美術大学	1	東京法律専門学校	1
近畿大学	26	大阪人間科学大学	1	北海道科学大学	1	軽種馬育成調教センター	1
甲南大学	7	関西医科大学	1	第一薬科大学	1	OSK日本歌劇団	1
龍谷大学	2	千里金蘭大学	1	短期大学計	23	海外計	2
同志社女子大学	14	奈良学園大学	1	プール学院短期大学	9	オレンジコースト大学	1
神戸女学院大学	18	阪南大学	1	武庫川女子大学短期大学部	7	Kyung Hee大学	1
武庫川女子大学	16	森ノ宮医療大学	1	龍谷大学短期大学部	1		

クラブ等の成果

高校創作舞踊部 3.18

- 第7回ダンス・ガラOSAKA
優秀賞 牧之瀬詩(ⅢB) 米本理乃(ⅢB)

高校ソフトボール部 3.25

- 第24回つくし杯ソフトボール大会 2部準優勝

中高放送部 3.23

- 大阪少年補導協会 防犯予防活動への功労表彰

中高美術部 5.27

- 大阪私学美術・工芸教育研究会 第51回写生大会
奨励賞 鈴木美紀(ⅢA) 岩森彩乃(ⅠA) 益池彩乃(3C)
優秀賞 玉岡那菜(ⅢF)

中学器械体操部 6.3

- 平成30年度大阪市中学校春季総合体育大会体操競技之部
女子種目別跳馬 優勝 生駒あずみ(2A)

中学演劇部 6.17

- 第139回大阪府中学生演劇祭
最優秀 大阪府知事賞

高校放送部 6.17

- 第65回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会
アナウンス部門 第2位 全国大会出場 岡田羽叶(1F)

見えないものに目を注ぐ

中高教諭 久保 昌子

だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べ物にならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

(コリントの信徒への手紙2 4章16節～18節)

私は、去年の12月に洗礼を受けました。新しいことを始めるのはいつでも勇気が要るものです。私にとって教会生活を始めることは、これまでの自分の生き方をはっきりさせたいという気持ちが大きかったのです。私の家は仏教で、幼い頃から親はかなり信心深い方でした。しかし、中学校からキリスト教の学校に入学し、大学まで進み、社会人生活のほとんどを本校で過ごしている私は、人生のほとんどの期間をキリスト教に触れながら暮らしていることとなります。

さて、中学1年生のある日、次のような聖書箇所を読むことになりました。

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、2人が一緒になる前に、聖霊により身ごもっていることが明らかになった。(マタイによる福音書 1章18節)

聖霊がやどって身ごもる、つまり妊娠してしまうのだ、というのは中学1年生の私にはかなりショックでした。当時「3年B組金八先生」というドラマが人気で、中3の女の子が、同級生の男子との間の子どもを妊娠してしまう、という話があり、ドラマの中で学校中が大騒ぎになっていました。万一自分も聖霊によって身ごもってしまったら…と思うと、夜も眠れないくらい心配だったことを覚えています。

そんな幼い日を経て、毎日礼拝を受けてきました。学生時代は、お世辞にも礼拝を真面目に受けてきたとは言えません。しかし大学生の頃から、私はいずれクリスチャンになりたいと思うようになったのです。それは、自然に聖書の言葉が自分の体に染みついて、自分の根幹を成すものになっていたからだと思います。

それから30年近くが過ぎ、洗礼を受けさせていただく運びになったのです。クリスチャンになった今、日曜に礼拝に行くようになって思うのは、お祈りのたびに「感謝」という言葉が出てくるということです。今日も生きて、明日もたぶん生きていられること、食事が与えられ暮らす場所や必要なものが与えられ、こうしてこの学校で奉職できること、家族や友だちがいること、当たり前だと思われがちなのに感謝しなければならない、と思うようになりました。

目に見えないもの、つまり体の中に知らず知らずにうちに蓄積された感謝の精神を大切に生きていきたいと思っています。

2017(平成29)年度 決算について

1. 2017年度の決算に影響した主な内容

学校法人プール学院と学校法人桃山学院の間で締結された『プール学院大学の設置者変更に関する基本契約』に基づき、堺市南区横塚台四丁5番1の土地・建物、および、備品図書の一部を学校法人桃山学院に承継した。

(2) 事業活動収支計算書

(単位 千円)

2017(平成29)年度 事業活動収支計算書 (2017.4.1~2018.3.31)			
事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	1,442,829	人件費(含退職金)	1,506,355
手数料	12,032	教育研究経費	679,327
寄付金	764,729	管理経費	259,350
経常費等補助金	564,368	徴収不能額等	0
付随事業収入	36,957		
雑収入	171,417		
教育活動収入計	2,992,335	教育活動支出計	2,445,033
		教育活動収支差額	547,302
受取利息・配当金	158	借入金等利息	47,025
その他の教育活動外収入	0	その他の教育活動外支出	0
教育活動外収入計	158	教育活動外支出計	47,025
		教育活動外収支差額	△ 46,867
		経常収支差額	500,434
資産売却差額	0	資産処分差額	4,098,907
その他の特別収入	20	その他の特別支出	0
特別収入計	20	特別支出計	4,098,907
		特別収支差額	△ 4,098,886
事業活動収入計	2,992,514	事業活動支出計	6,590,966
		基本金組入前当年度収支差額	△ 3,598,452
		基本金組入額合計	△ 0
		当年度収支差額	△ 3,598,452
		前年度繰越収支差額	△ 4,503,669
		基本金取崩額	6,663,615
		翌年度繰越収支差額	△ 1,438,505

学院人事

■ 学校法人役員・評議員

〈就任〉—2018.4.1付—

理事・評議員 作野 理恵、石井 英隆
評議員 佐竹 純子、田中 幸一

〈重任〉—2018.4.1付—

理事・評議員 小澤 淑郎
評議員 松原恵美子、鈴木 光子、大坪 栄子、
井上 美津、岩城 聡、成岡 宏晃、松平 功、
柳原 高志、増成 恒哉、島田 恒、
太田 幸彦、鶴坂 貴恵

〈退任〉—2018.3.31付—

理事・評議員 蔵田 實、加藤 明宏
評議員 楠原 博次

■ 役職者

〈就任〉—2018.4.1付—

副理事長 桜井 和之(法人事務局長と兼任)
短期大学学長 作野 理恵

〈退任〉—2018.3.31付—

副理事長 増成 恒哉*
大学・短期大学部学長 蔵田 實

*増成 恒哉は理事・評議員は継続

2. 当期決算の概要

(千円未満を切捨てているため、合計は一致しない場合があります。)

(1) 資金収支計算書

(単位 千円)

2017(平成29)年度 資金収支計算書 (2017.4.1~2018.3.31)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,442,829	人件費支出(含退職金)	1,533,103
手数料収入	12,032	教育研究経費支出	412,761
寄付金収入	764,729	管理経費支出	232,507
補助金収入	564,368	借入金等利息支出	47,025
資産売却収入	0	借入金等返済支出	483,240
付随事業・収益事業収入	36,957		
受取利息・配当金収入	158		
雑収入	171,417	施設関係支出	1,648
借入金等収入	0	設備関係支出	22,406
前受金収入	149,355	資産運用支出	326,811
その他の収入	219,620	その他の支出	188,193
資金収支調整勘定	△ 426,166	資金支出調整勘定	△ 223,782
前年度繰越支払資金	280,897	翌年度繰越支払資金	192,284
収入の部合計	3,216,200	支出の部合計	3,216,200

(3) 貸借対照表

(単位 千円)

2017(平成29)年度 貸借対照表 (2018年3月31日)			
資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	4,941,626	9,109,557	△ 4,167,930
有形固定資産	3,621,940	7,990,181	△ 4,368,241
特定資産	1,318,781	1,118,470	200,311
その他の固定資産	905	905	0
流動資産	635,384	668,888	△ 33,503
資産の部合計	5,577,011	9,778,445	△ 4,201,433
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	924,082	1,384,251	△ 460,168
流動負債	508,874	651,687	△ 142,813
負債の部合計	1,432,957	2,035,938	△ 602,981
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	5,582,560	12,246,175	△ 6,663,615
第1号基本金	5,410,834	12,074,450	△ 6,663,615
第4号基本金	171,725	171,725	0
繰越収支差額	△ 1,438,505	△ 4,503,669	3,065,163
翌年度繰越収支差額	△ 1,438,505	△ 4,503,669	3,065,163
純資産の部合計	4,144,054	7,742,506	△ 3,598,452
負債及び純資産の部合計	5,577,011	9,778,445	△ 4,201,433

2020年度 短期大学の募集停止について

2018年6月4日(月)のプール学院短期大学のホームページに、以下を掲載しており、改めてご紹介を致します。なお、在学生・保護者等々へは文書でのお知らせと説明を行いました。また、卒業生対象の説明会は、7月15日(日)に行ない、次回は、以下の通りで予定をしております。本件へのお問い合わせは、短期大学事務局までお願いいたします。

日時:9月29日(土)11時~12時 場所:清心館(勝山キャンパス)

対象:短期大学卒業生

内容:学長・副理事長からの説明と質疑応答

HOME > 最新情報 > 2020年度 学生募集 停止のお知らせ

トピックス

2020年度 学生募集 停止のお知らせ

主の御名を賛美します。
平素は本学の教育研究活動にご支援賜り、厚く御礼申し上げます。

プール学院短期大学は、1950年に開学して以来、建学の理念であるキリスト教精神を基本としながら、一般教養と専門分野に加え、適切な職業教育を展開することにより、社会の多様な要請に対応できる実践的能力を備えた学生の育成に努めてまいりました。
キリスト教主義の女子短期大学として、本学の使命と役割は大変重要であったと認識しております。しかしながら、少子高齢化が加速する中で、この厳しい社会情勢が一転する可能性は極めて低く、2018年5月28日開催の理事会におきまして、2020年度から学生募集を停止することを決定いたしました。

現在、2019年度入学者の募集を実施しておりますが、プール学院短期大学として最後の入学生となります。次年度入学生も含めた学生の皆様には、卒業に至るまで、教育研究環境の維持に努めるとともに、免許資格の取得や就職活動、学生生活全般等の支援に関しても引き続き全力を尽くす所存です。卒業後につきましても、本学院として丁寧に対応させていただきます。

今後、本学院では、キリスト教に基づく人間教育を実践する中等教育機関として、建学の理念に基づく教育活動を継続してまいります。

これまでのプール学院短期大学の教育研究活動へのご支援にお礼申し上げますとともに、この度の決定につきましても、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

平安
学校法人 プール学院
理事長 杉山 修一

プール学院短期大学
学長 作野 理恵

教職員

〈新任・就任〉-2018.4.1付-

*短大
アシスタントチャプレン ヒューム・ユウワン
教授(専任) アーサー・レベッカ
准教授(特別任用) 臼井 正幸
講師(特別任用) 井下 べに、谷口 浩二
職員(常勤管理職嘱託) 坪田 直人

*中学・高校
教諭(任期制専任) 奥野 みどり、川崎 聖高、
久門 章代、田中 勇貴、
榎本 弥優
職員(任期制専任) 高田 陽淑、東畑 綾

〈退職〉-2018.3.31付-

*大学・短大
チャプレン キム アンドレ
教員(特任教員含む)
・国際文化学部教養学科
柿本章、石原 陽子、関 綾子、舞 寿之
・教育学部教育学科
守屋 國光、長尾 彰夫、中村 哲、磯島 秀樹、
永井 利三郎、越智 貢、石塚 謙二、湯峯 裕、
田原 昌子、廣田 佳彦、鎌田 首治朗、亀井 慶二、
栗岡 住子、灘本 雅一、中村 浩也、山本 景一、

野口 佳子、松久 真実、小餅谷 哲男、安井 茂喜、
今宮 信吾、永井 明子、飯田 真人、山本 弥栄子、
早瀬 真喜子、大畑 昌己、八木 利津子、間處 耕吉
劉 眞福、梶井 大輔、村上 祐介、柴 恭史

・短期大学部秘書科
白松 直樹、平井 拓己
・短期大学部幼児教育保育学科
ピエール・バビノ

職員(任期制・常勤管理職嘱託含む)
内田康太郎、宮谷 浩文、小脇 智佳子、
豊島 美紀、井川 貴通、藤田 直子、岩城 康、
桑名 志麻、津葉井 祐子、増成 俊哉、
藤原 義彦、植田 眞治、袖垣 博樹

*中学・高校
教員(任期制専任含む)
西村 正太、古田 雄佑、平尾 溪花、
里 純栄、鍵村 龍一
職員 樋上 ヒロ子、吉村 泰昌

*法人本部
職員(常勤管理職嘱託含む)
楠原 博次、天野 彰、南 貴子*
*南貴子はパート職員として勤務

訃報

●木本 明男氏
2018.4.26逝去(83歳)
1984.4.1~2001.3.31
大学・短大職員

ご在職中のお働きを覚え、
つつしんで魂の平安を
お祈り申し上げます。

ご寄贈感謝

〈卒業寄付〉

○大学2017年度卒業生
100,000円
○短大2017年度卒業生
100,000円
○高校2017年度卒業生
1,000,000円



「主にあってひとつ」

一般社団法人POOLE理事長
鈴木 光子 (高73回・小柴)



学院関係のみならず、同窓会会員のみならず、いつも同窓会に心を寄せていただき、力強く感謝でございます。

本年4月にプール学院大学は桃山学院に設置者変更され桃山学院教育大学となりました。また、6月4日にはプール学院短期大学は2019年を最後に学生募集の停止をすることが発表されました。これらのことは学院のみならず、今後の同窓会の歩みにとってもとても大きな出来事なのです。同窓会はいつも学院と共にありましたが、これからの同窓会の有り様についても検討する時がきているのでしょうか。どうぞみなさまのご助言、お力添えをいただきたいと願っております。

それぞれの報告にあります。総会には米国東部支部の内田支部長、九州支部の大森支部長がご出席くださいました。5月には熊本で九州支部会が、6月には東京で関東支部会が開催され、それぞれにとっても素晴らしい集いになり、ご尽力いただいた支部の方々へ感謝でした。

このように総会、支部会に出席いたしますと同窓会は多くの方に支えられ、同窓生はどこにいても「主にあってひとつ」ということを強く感じます。このつながりを大切に、同窓会の歩むべき道を祈りをもって問い、進めてまいりたいと思います。

に活動しております。今年の「ミヅパ会総会」は、10月27日(土)午後1時から、プール学院短期大学泉ヶ丘キャンパスにて行います。皆さまどうぞ足をお運びくださいますようお願い申し上げます。

HP <http://poole-mizpah.jp/>

一般社団法人POOLE 「2018年度 定期社員総会」開催報告

広報委員会委員長 浦垣 敏子 (高77回・江畑)

2018年5月19日(土)午前11時よりプール学院勝山キャンパス会議室において「一般社団法人POOLE 2018年度定時社員総会」が開催されました。

出席38名、委任状出席45名(社員総数132名)により定足数を満たし総会成立となり、議長に鈴木光子理事長が選出され、定款第4章第18条に基づき第1号議案から第5号議案は全て全員挙手で承認・可決されました。



一般社団法人POOLE 「2018年度 同窓生の集い」開催報告

広報委員会委員長 浦垣 敏子 (高77回・江畑)

2018年5月19日(土)午後1時よりプール学院勝山キャンパスの清心館において、「一般社団法人POOLE 2018年度 同窓生の集い」が開催され、約120名の同窓生が集いました。

第1部 成岡宏晃チャプレンの司式で開会礼拝ののちプール学院短期大学 松平 功チャプレンより、あたたかいメッセージを受け、同窓会の祈りをささげました。

第2部 桜井 和之 プール学院副理事長、作野 理恵 プール学院短期大学学長、内海 伸晃 プール学院中高校長、鈴木 光子 一般社団法人POOLE理事長より挨拶の後、社員総会(当日午前開催)の報告・会計報告、大学同窓会ミヅパ会と各委員会等の報告を行いました。

第3部 正富ふさよ先生の指揮のもと同窓会コーラスPOOLEの楽しい歌声に続き、スペシャルゲストの古東 真智子(高92回・長友)さんメンバーによるRainbow Gospel Choir(レインボー・ゴスペル・クワイア)の全身からあふれる美しくパワフルな、愛・喜び・希望そして平和のハーモニーが清心館に響き渡り、最後にみんなも参加して喜びあふれる楽しい一時となりました。



「同窓生の集い」終了後、同窓会館2階において恒例の「手作りバザー」・「喫茶ルーム(有料)」が開催され、今年は九州支部の大森昌子支部長、米国東部支部 内田由里子支部長も参加していただき、楽しく和気藹々とした親睦のひとときを今年も楽しみました。



2018年4月以降の ミヅパ会について

プール学院ミヅパ会(短期大学・大学同窓会)会長
五十嵐 よし子 (高84回・短英26期・佐藤)



今年の夏も異常気象でしたが、同窓生の皆様お変わりございませんでしょうか。大阪北部地震、西日本豪雨、台風等で被害に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げます。

さて、皆様ご承知のことと存じますが、2018年4月より会の名称は、一般社団法人POOLE(プール学院同窓会)プール学院ミヅパ会(短期大学・大学同窓会)に変更されました。通称は昔から馴染みのある「ミヅパ会」でございます。母校に変化がございまして、卒業生のこの同窓生組織は変わらず活動しております。ご心配いただく声もございますので、改めて簡単にお伝えさせていただきます。

「ミヅパ会」は、短期大学、大学、大学院のご卒業生・修了生で構成され、恩師を客員として構成されております。皆様からお納めいただきましたミヅパ会費は終身会費(卒業時または入学時のみ1回のご納付)でございます。

会員相互の親睦及びプール学院との関係を密とすることを目的とし、同窓会本部と共にプール学院で培われました奉仕精神を基

「走り続ける、変わり続ける。」これは本年4月1日、大阪市交通局市営地下鉄が民営化され、大阪市高速電気軌道株式会社(略称:Osaka Metro)となった時の広告です。このタイトルに続き、「変わるけれど、変えたくないことがある。それは鉄道会社としてのこだわりを持ち続けること。<中略>変わらないけれど、変えたいことがある。それは鉄道会社の枠を超えた挑戦をしていくこと。～」と記されています。この言葉の意味を、かみしめたい。「桜」